



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
12/30 (月)	+ 2,300	▲ 10,800	▲ 8,500		国債補完供給 + 6,400 CP等買入 ▲ 1,600	CP等買入 + 2,000	
1/6 (月)	+ 3,000	+ 2,000	+ 5,000	国債発行償還 (2年)	共通担保 ▲ 30,000		欧：ユーロ圏PMI (12月)
1/7 (火)	+ 3,000	+ 1,000	+ 4,000				米：貿易収支 (11月) 欧：ユーロ圏CPI (12月)
1/8 (水)	+ 2,000	▲ 64,000	▲ 62,000	国庫短期証券発行償還 (3M) 国債発行 (10年) 法人税・消費税・保険料掛け	共通担保 ▲ 8,000		米：FOMC議事要旨 (12月17、18日開催分) ADP雇用統計 (12月)
1/9 (木)	+ 2,000	+ 2,000	+ 4,000				日：日銀支店長会議、地域経済報告 (さくらレポート) 毎月勤労統計 (11月) 欧：ユーロ圏小売売上高 (11月)
1/10 (金)	+ 2,000	▲ 6,000	▲ 4,000	国庫短期証券発行償還 (6M) 国債発行 (30年)	共通担保 ▲ 20,000		米：雇用統計 (12月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比1800億円減少の533兆5,100億円から始まった。その後、国債買入オペや国債発行等の要因により増減し、27日は532兆8,200億円 (速報) で越週した。

無担保コールON物加重平均金利は週初、0.227%から始まった。その後もビッドサイドの調達意欲は底堅く、同金利は横ばいで推移した。

ターム物は1W~3W物0.231%~0.350%のレンジ、1M~3M物0.35%~0.58%のレンジで出が見られた。

来週・再来週の予定は、国内では、1月9日にさくらレポート、毎月勤労統計の公表などがある。海外では1月7日にユーロ圏CPIの公表、8日にADP雇用統計の公表などがある。

【無担保コールレート】

	予想レンジ (%)
O/N	0.220 ~ 0.228
1M	0.28 ~ 0.45
2M	0.30 ~ 0.55
3M	0.43 ~ 0.60
6M	0.50 ~ 0.65

<レポ>

足許GCは週を通して+0.24%近辺の出合いが中心となった。取引が四半期末跨ぎとなる27日は+0.20%近辺から出合い始めたが、後場には+0.25%まで上昇した。

SC取引は2年460~467回債、5年149~174回債、10年355~371回債、20年140~160回債、30年64~84回債、40年13~17回債などに引合いが多く見られた。などに引合いが見られた。

【オープン市場】

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	0.12~0.20
CP 3M	0.30 ~ 0.50

<CP>

今週の入札発行総額は約4兆5,000億円で、週間償還額の4兆300億円を上回った。発行残高は先週末時点の25兆4,551億円から、12月26日時点で26兆1,323億円に増加した。発行市場は、機械、電気機器、石油製品、建設業、陸運業、その他金融業などで大型の発行案件が見られた。入札案件の発行レートは銘柄や期間等によりばらつきが見られ、1M物から3M物で、0.25%から0.50%台後半の出合いとなった。

25日にCP等買入オペが予定通り2,000億円でオフアーされた。結果は、按分レート0.457% (前回0.452%)、平均落札レートは0.534% (前回0.483%)と足切りレート、平均落札レート共に、前回比で上昇し、過去最高のレートとなった。また、1月28日のCP等買入オペでは、2,000億円でオフアーが予定されており、1月分のオフアー分をもって、CP等買入オペは終了となる。

来週から1月10日までの償還額は、1兆4,000億円となっている。発行市場は、期明けの調達再開でCPの利用が想定され、相応の発行が見込まれる。発行レートは、1M物から3M物で0.20%台後半から、レートの上昇余地を探る展開が予想される。

<TDB>

今週は国庫短期証券の入札は行われなかった。来週以降は1月7日・10日に3M、9日に6Mの入札が予定されている。